

—空手道部—



- 体育会名：関西学院大学体育会空手道部
- 創部年：1948年(昭和23年)
- 2025年度会員数：31人(4年7人、3年6人、2年10人、1年8人)

- 同窓倶楽部名：関西学院大学体育会空手道部同窓倶楽部
* 関西学院同窓会 公認団体

- 同窓倶楽部通称：
 - 設立年：
 - 会員数：

1948(昭和23)年に空手道同好会として発足。同年運動総部総会で部への昇格の承認を得、空手道部が誕生した。

初代師範は糸東流開祖摩文仁賢和。55年に全日本学生空手道連盟、57年に関西学生空手道連盟が結成され、62年の第5回全関西大学選手権で3位、同年の第6回全日本大学選手権で4位に入ると、63年の第1回西日本大会で準優勝。翌64年、第7回全関西選手権で準優勝、第2回西日本大会は4位に終わったが、第8回全日本大学選手権で、初の全国制覇を成し遂げた。

同大会では個人においても主将前川英博が準優勝を果たした。その後、73年に全関西優勝(主将永谷寛治)、翌74年に全関西個人戦準優勝(辻正博)、75年、77年には全関西4位など、関西の学生空手界をリードする役割を担ってきた。

一時は低迷が続いたものの、96年の関西個人戦形の部準優勝(堀川弘道)を機に、97、98年と連続で同部門3位入賞を果たした。

99年、関西学生空手道連盟は1、2部リーグ制を導入。関学は98年のリーグ決定戦でベスト16入りし、みごと1部でスタートを切る。92年に導入されたスポーツ推薦入試制度によって、98年に初の入部者を獲得すると、稲田隆宏が02、03、04年と全関西個人形3連覇の快挙を達成、全日本個人形でも03、04年準優勝、05年には優勝に輝いた。

08年には全関西団体形男子優勝、09年は全関西団体形女子優勝、11、12年にも同部門準優勝と、形競技にて大きな成果を残した。

さらに日本ナショナルチームの一員として、森岡実久が11、12年にアジア大会団体形女

子を連覇。同年の第21回世界空手道選手権(パリ)で優勝という輝かしい成果をあげた。

一方、組手においては、ようやく10年全関西団体男子で、73年以来37年ぶりに3位入賞。女子団体は13年西日本・全関西とも3位入賞と、女子始まって以来の成績をあげ、復活の兆しが窺えるようになってきた。

(関学辞典原稿参照:関学空手道部拳士会拳士会事務局長 阪本徹 記)

現在の空手道は、世界150カ国以上の国で行われるようになり、国際的スポーツになった。

空手道の普及は喜ばしいことであるが、今の空手道は、スポーツとして競技偏重になっており本来の武道としての空手道が、忘れられてきている。空手道は、競技と武道が車の両輪になるべきであり、「空手に先手なし」「礼に始まって礼に終わる」の武道の精神は守ってゆかねばならない。

わが関学空手道部も学生空手道の一翼をにないつつ、形・組手の技術面の向上と、内面的な精神力を充実させ、強く尊敬され親しまれる空手人の育成を目標とすべきである。

(関学空手道部 拳士会 名誉会長 井上純一 創部60周年式典

平成20年11月 寄稿文参照)